

学校と地域をむすぶ

大津市立葛川小・中学校

かけはし

地域コーディネーターだより

2016. 6. 3

NO. 1

4月8日の入学式で、小学校2名、中学校2名の入学生を迎え、小学校は17名、中学校は10名となりました。新学期がスタートしてはや2ヶ月がたちました。子どもたちは地域の中に出かけたり、地域の方に教えていただきふれあったりしながら学習を進めています。今年度も、葛川・久多の地域の方々にはたくさんお世話になることかと思いますがよろしく願いいたします。また、地域コーディネーター通信「かけはし」の発行を通じて、学校と地域、子どもたちと地域の方々とのつながりを紹介しながら、少しでも学校や子どもたちの様子を知っていただきたいと思えます。あわせて、よろしく願いいたします。

1年ぶりの学校林

5月半ばに小中学生で学校林に行きました。学校林活動春の部です。去年は、夏の活動はクマ出没により、秋の活動は雨により中止になり、1年間で1回だけの活動に終わっていました。実際に山に入るのは1年ぶりのことです。「昨年春に、苗木にかぶせたヘキサチューブはどうなったのだろう。」「木はどれぐらい大きくなったかなあ。」「鹿に葉っぱを食べられていないかなあ。」子どもたちは行く前から久しぶりの山を楽しみにしていました。雲一つない最高の青空のもと、アシビ谷の学校林に向かって歩いていきました。国道を歩く時には、駐在所の塩山さんがパトカーの赤燈をまわして先導しながら安全を確保してくださいました。中学生が小学生とペアになり、楽しく声かけをしたり励ましたりしながらいっしょに歩いてくれました。学校林では、朝早くから森林組合の方々から25本のヤマザクラの苗木を植えておいてくださいました。山の上では中西専務さんからお話を聞きました。「小学校6年生の人たちが1年生の時に植えたスギの木が、こんなに大きくなりました。もう、4mをこえています。アスナロの木も植えましたね。

雪で倒れた木が網をやぶり、そこから鹿が入ったようです。やっぱり、鹿の害は避けられません。今回は、ヘキサチューブに替わり、さらに強力なハイトシェルターをかぶせたいと思います。」と話されました。まず最初に、木の観察をしました。昨年秋に決めた自分たちのグループの木。実際には現地での活動が中止となり、観察できませんでしたが、写真や先生方にとって記録をもとにどんな木なのかを想像していました。その木を見つけると秋から生長した所をさがしながら観察をしました。秋には名前のわからなかった木も、中西専務や織田さんに尋ねて名前を教えてくださいました。ヘキサチューブの上から元気よくのびる枝や葉。背も高くなり葉の枚数も増えています。ヘキサチューブの内側にはたくさん水滴。葉っぱからたくさん水蒸気が出ているのでしょうか。生長の勢いが感じられます。ヒノキはヘキサチューブの半分ぐらいの高さになっていましたが、外に顔を出していないので様子がわかりません。そこで織田さんがヘキサチューブをとってくださいました。他の木に比べるとまだまだ背は低いですが、元気よく枝葉を出しています。緑色の葉にまじり黄緑色の新しい葉もたくさんありました。さわってみると柔らかくみずみずしいです。ヒノキも鹿に食べられることなく、生長していました。この後、新しく植えていただいたヤマザクラの苗木にハイトシェルターをかぶせました。織田さん



んから作業の仕方を教えてくださいました。グループごとに協力して作業を行いました。昨年春にヘキサチューブをかぶせた経験のある人も多かったため、丁寧に、てきぱきと作業を終えることができました。1年ぶりの学校林。ヘキサチューブに守られた苗木は無事でした。ロープでしっかりと引っ張って



ださっていたので、雪にも負けずしっかりと立っていました。今までは山の木を見下ろす感じがしていましたが、今回は木を見上げるような感じがして、だんだん「森」に近づいてきたなあと思いました。今後も木の生長ぶりを見ていきたいと思います。どんどん大きくなり幹が太くなっていく木には、またきつ

と次の段階の作業が必要になってくるのだと思います。活動の日だけではなく、ふだんから木々の様子や環境に気を配り手入れをいただいている森林組合の皆様方、ありがとうございます。夏の活動も楽しみにしています。

寿会さんとグラウンドゴルフ

今年も、小学生は寿会の皆様方と一緒にグラウンドゴルフを楽しみました。小学校のグラウンドで行われた「グラウンドゴルフ大会」。9名の寿会の方々が来てくださ



ました。子どもたち、寿会の皆さん、先生方混合のチームが4つ。チームごとにプレイが始まりました。はじめてクラブを持つ子どももいます。「このへんを持って、足をちょっと開いて。」「コンと当てたらいいよ。」と一緒に立って手を取りながら教えてくださいのおじいちゃん、おばあちゃん。何回も経験を重ねた高学年の子ども

たちは、ねらいを定めてクラブをふります。「ええとこねらったなあ。」「次は入るよ。」「うまい！」とお褒めの言葉もいただきました。子どもたちにたくさん声をかけ教えたり応援して下さる、おじいちゃんおばあちゃんたちも、自分のプレイは真剣です。コーン！快音！ゴールのすぐそ



ばでボールは止まります。「すごい！」「さすがあ〜」子どもたちもその上手さに脱帽です。ゆっくりと楽しみながら8ホールを回り終わりました。その後、いっしょに給食をいただきながら、表彰式が行われました。ホールインワン賞も出ました。日々練習に励んでおられる寿会の皆さんのすご技に感動しました。



おいしいおいもがとれますように



昨年、頑丈な畑の柵を作ってくださった寿会さん。今年も4月の終わりに網をかけて畑の準備を始めて下さいました。そして、その畑に小学校1・2年生がさつまいもの苗を植えました。もちろん、いっしょに手伝っていただいたのは、寿会の方。朝早くから来てく

ださり、肥料をまいて耕運機で耕し、うねを作ってくださいました。「マルチシートをかぶせると、あつたまつて甘いおいしいおいもができるよ。」「南の方に葉を向けるとお日様がよくあたるよ。」と教え



ていただきながらいねい

に苗を土に植えていきました。50本の苗がしっかりと植まりました。今にも雨が降り出しそうなあやしい天気の日でしたが、植えている時には薄日も差してきてたつぷりとお水もあげました。「秋にはおいしいおいもがとれ



るといいです。」「いっしょに焼き芋をして食べて下さい。」と子どもたちはお礼の言葉を言いました。今年もこの柵と網に守られて、サルやハクビシンの被害にあわずに、すすくと畑の野菜が大きくなり実をつけてくれることを願っています。今年はどうなおいもがどれだけ採れるかなあ。甘いおいもになるかなあ。とっても楽しみです。

中学1年生のふるさと体験学習

中学1年生の二人は、「ふるさと体験学習」で2泊3日の宿泊学習に行きました。

1日目 間伐体験

ふだん当たり前のように見ているまわりの山の木。この山の木は私たちの生活とどのように関わっているのだろう。山の木からどのように物が作られていくのだろう。山の木について出てきた多くの疑問を解いていくために、森林組合の織田玲さんにお世話になって間伐体験をさせていただきました。町居の山



に実際に入りました。どんな木を間伐するのか？なぜ間伐するのか？を聞きました。生えている木すべてを育てていくのではなく、山を元気にしていくためにはやはり木を切ることも必要なのだと思います。この日間伐させてもらう木はヒノキ。あらかじめ切る所にしるしをつけて、ロープでひっぱっておいてくださいました。まずはのこぎりで木に切り込みを入れていきます。のこぎりの挽き方も教えていただきました。二人で交代しながら切れ目が入っていきました。

そして次はロープで引っ張ります。はじめは引っ張っても引っ張ってもびくとも動かなかった木ですが、だんだん傾きながらギシギシと音を立てはじめました。子どもたち二人に先生も加勢。「1・2の3！」声をかけ、息を合わせてふんばります。木が傾いてきた！ミシミシ！木が倒れました。瞬間、木の切り株のまわりに日が差し込み明るくなりました。これが間伐の理由なのだと実感しました。切り株の年輪を数えてみると47本ありました。今度はこの木をのこぎりで切り丸太を作りました。木を回しながら切りました。次は木の皮をむきます。大きなピーラーみたいな鎌の使い方を教えてもらいました。力を入れて引っ張り、めくった皮の下から出てきたのは白い木。さわってみると濡れていてひんやりと冷たい。木の中にはこんなにも水分が含まれているのだと思いました。丸太を持って山を下りました。木工所まで運んでもらい、この丸太を使ってベンチ作りが始まりました。どの丸太をどこに使うのか。長さはどれだけにするのか。木のどの面を上にするのか。織田さんにアドバイスをいただきながら二人で頭をひねって考えました。道具を使うのはとても難しかったですが、やっているうちにコツがわかってきました。丸



太を切ったり、木を留め合わせたりしながら、だんだんベンチらしくなってきました。そして、最後のくいを打ち込み完成！時間はかかりましたが、すわり心地のいいベンチができました。つい、さっきまで山に生えていた木がベンチに生まれ変わりました。「木は山で生きていた分だけ生き続ける」という織田さんの言葉が心に残りました。47本の年輪を持った木。きっとこの後47年間ベンチは使われ続けることでしょう。



2 日 目 古 地 図 から 防 災 を 学 ぶ

伊藤博さんを講師にまねき、古地図を使った講話を聞きました。宿泊を共にしている伊香立中学校の人たちもいっしょにお話を聞かせていただきました。机の上に広げられた大きな古地図に興味をわきました。この地図は1800年ごろに描かれた地図だそうで、ずっと坊村の自治会で保管されていましたが、今では大津の歴史博物館で保管されています。山や川、明王院・地主神社などがいてねいに描かれている中、黄土色に塗られている部分がありました。これが、1662年に起こった寛文の大地震で崩れたところだそうです。この地震では、特に梅ノ木から町居にかけての被害が大きく、崩れた土砂で安曇川は堰き止められ、一度に250~300人の方々が亡くなられたということです。この地図に山崩れのあとが描かれているということは、地図が描かれた時にもまだ崩れた跡が残っていたということになります。町居のお寺の宝塔が昭和の時代になってから土の中から見つかったという話も聞きました。300年間埋まっていたことになります。宝塔が埋まるぐらい土砂が流れ出たのです。改めて地震の恐ろしさを感じました。伊藤さんはおっしゃいました。「台風は予測できるが、地震は予測できないので大変こわい。自分の身は自分で守らなければならない。そのためにも、いつでも対応で



きるように日常から準備をしておく必要がある。」と。寛文の大地震の話の他にも、時代を同じくして起こっていた関ヶ原の戦いや織田信長のお話にも興味を持つことができました。織田信長が浅井・朝倉氏に挟み撃ちになり、

葛川の道から逃げたようで、歴史を身近に感じることができました。

3 日 目 グ ラ ン ド ゴ ル フ

宿泊学習の3日間、とてもよいお天気に恵まれました。そして最終日も最高のお天気のもと、グランドゴルフを楽しみました。たくさんの寿会の方々に来ていただき、2チームに分かれてグランドゴルフが行われました。学校の運動場で行うグランドゴルフとは違い、キャンプ場に設営されたコースは、アップダウンあり、芝生ありで、本格的です。思いっきり打ったはずなのに、なかなか距離がのびなかったり、ねらったコースからカーブしてはずれていたり。それでも、寿会の方々はさすが普段から練習しておられるだけあって、コースの特徴もよくご存知で、それに合わせた打ち方をされる場所にすごさを感じました。子どもたち二人も、ホールをねらい闘志を燃



やします。「ここは、思いっきり振ったらええよ。」「ええとこ飛んだよ〜」「入った〜。すごい、すごい」など、アドバイスをしてもらったり、励ましの言葉をかけていただきながら、そのおもしろさにはまっています。1ゲーム目が終わり、2ゲーム目はもっと成績をあげたいと意欲満々でした。あっという間に半日は過ぎ、寿会のみなさんと交流を持ちながら、グランドゴルフのおもしろさや楽しさ、難しさを体感することができました。

3日間の活動で、お世話になった地域の皆様方、ありがとうございました。

3日間の活動で、お世話になった地域の皆様方、ありがとうございました。